

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 75

2018年11月23日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

第20回満月まつり

私が「満月まつり」に初めて参加したのは、2005年辺野古の海に沖縄防衛局が設置した鉄製の4つのやぐらを占拠して、ボーリング調査を身体を張って阻止した闘いを行っていた時だと記憶しています。当時は午前6時に辺野古の浜に集合して、夕方5時ごろまで沖のヤグラに5~6人で座り込み、防衛省職員と激しい肉弾戦を繰り返していた闘いでした。この闘いで浜やテントでは、県民は三線や太鼓、琉歌などで激励を連日行っていました。なかでもこの満月まつりは年に1回ということもあって、まよなかしんやさん、海勢頭豊さんらプロの歌手、演奏家たちが参加する大掛かりなもので、参加する私たちは泡盛やビールを片手に楽しく過ごしました。海上での闘いは今日のように暴力的な海上保安庁の配置もなく、陸に機動隊もいないので、まつりはいたって気楽なものでした。

あれから20年、「満月まつり」は大浦湾・瀬高の浜で毎年実施されています。今日も午後6時30分頃には満月が東の空に上り、400人の参加者もあり、大いに盛り上がりました。この盛り上がりは、歌手、琉球舞踊、エイサー、詩の朗読と手話など、すべての参加者が辺野古新基地建設は絶対に断念させるという決意にみなぎっていました。

建設が進む海は、今日も空には満月、海にはジュゴン、サンゴなどが棲息する大自然が広がっています。絶対に人間の手

第20回満月まつり アピール

ジュゴンの棲む海、辺野古・大浦湾。太古の昔から地球を照らし続けてきた満月の明かりのもと、寄せては返す波の音に包まれながら、大浦湾を望む瀬高の浜で第1回「満月まつり」が開催されたのは、この海に辺野古新基地建設問題が持ち上がり間もない1999年でした。以来、「ジュゴンの海に基地はいらない！ まあるい地球、まあるい月、まあるい心！」を合言葉に続けられてきた「まつり」は今年、記念すべき第20回を迎えました。

沖縄発「満月まつり」は、この20年の間に海を越え、国境を越え、地球上のさまざまな場所の一つの満月に照らされながら、琉球の歴史の中で育まれた「命どう宝」の思いを共有し、平和な共生世界をめざす場として広がってきました。

1997年から始まった名護市民・沖縄県民による新基地反対のたたかいは、紆余曲折を経ながらも粘り強く続けられ、未だ工事は初期の段階にとどまったままです。去る9月の沖縄県知事選で、政府の理不尽な攻撃を跳ね返して基地反対の民意をはっきりと示し、「自立・共生・多様性」を掲げる玉城デニー県政を誕生させた私たちは、今年こそ、フロントのない自然のままの大浦湾を寿ぎながら「まつり」ができると期待していましたが、残念ながらその願いは踏みにじられ、工事が再開されてしまいました。また、県民の反対を足蹴にして、地球上でここにしかないノグチゲラやヤンバルクイナの棲むやんばるの森を破壊してオスプレイパッドの建設・運用が強行され、宮古・八重山・奄美への自衛隊基地建設・配備が進み、普天間をはじめ沖縄各地で米軍による事件・事故は後を絶たず、住民生活は脅かされ続けています。

しかしながら、沖縄・やんばるの豊かな自然と暮らしを守り、自然破壊や人権蹂躞のない平和な社会をつくっていききたい、ジュゴンやヤンバルクイナと共に生きられる幸せを子や孫たちに引き継ぎたいという私たちの思いは、決して揺らぐことはありません。こんな時だからこそ、原点に立ち返り、一人ひとりが闇夜を照らす月の光となりましょう！

自然の織り成す恵みに感謝しつつ、辺野古新基地建設反対！普天間に静かな空を！琉球諸島の軍事化反対！人と自然、人と人との平和な共生社会に向けて、さらに大きな輪をつくっていきましょう！

(2018年11月23日=旧暦10月16日)

第20回満月まつり実行委員会

(協賛団体：ヘリ基地いらない二見以北十区の会、じゅごんの里、北線のジュゴン調査チーム・ザン、ヘリ基地反対協議会、ヘリパッドいらない住民の会、沖縄うたの里、一坪反戦地主会浦添ブロック、アイヌ民族と連帯するウルマの会 ほか)

で破壊してはなりません。この美しい海、空を見ていると、それを破壊する反動安倍政権に怒りがこみ上げてきます。この大自然の対岸では、今でもシリアやアフガンで人殺しをしている海兵隊がいます。県内においても、安部の海岸に墜落事故を起こしたオスプレイが夜間飛行訓練を行い、住宅や学校の上空を低空飛行を繰り返しています。陸ではシュワブ演習場で、連日砲や銃による実弾射撃訓練を行っています。

なによりも怖いのが、核兵器、化学兵器も貯蔵しているのではと疑われる「辺野古弾薬庫」の存在です。弾薬庫にオスプレイが墜落しようものなら、この満月まつりに参加している人びとはみんな死んでしまうと思います。というのも、つい最近の6日にも、那覇の南方80km海上にF15戦闘機が、12日には沖縄東南東290kmの海上にFA18戦闘機が、墜落する事故が相次いでいますから。こうした事故は復帰50年たった今日まで毎年1機以上が墜落しています。

新基地建設はもつてのほか、キャンプ・シュワブ、辺野古弾薬庫は今すぐ撤去させなくてはなりません。

沖縄に米軍基地がある限り、満月まつりは続くと思えます。平和フォーラムのみなさん、辺野古、瀬高、二見の住民ともに闘わなければいけません。満月まつりのアピールをぜひ読んでください。